

【相談内容】

No65.跨線橋の診断方法、補修設計、補修工事について

○添接部に高力ボルト（F11T）が使用されているJR跨線橋（鋼橋）の診断方法、補修設計、補修工事について

【助言内容】

- F11Tについては、遅れ破壊が突然生じる可能性があるため、まずは第三者被害防止の観点からの措置が必要。国での事例としては、ボルトの交換を行うまでの暫定措置として落下防止ネットの設置や落下防止キャップの設置がある。
- その上で、定期点検等の点検の際にボルトの確認を行い、出来るだけ早く、ボルト交換の設計・施工を行った方がよい。
- なお、ボルト交換の設計においては、ボルトの規格変更（F11T→F10T）に伴う設計照査（許容応力度の確認）及びボルト交換による応力変化を考慮した施工手順の検討が必要
- 足場については、JRとの協議次第であるが、施工可能な吊足場の設置が可能であれば吊足場設置を、不可能であれば、軌陸車による施工を検討する必要がある。